

# 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8273
担当部課名	土木部	河川整備	課	管理 係
事務事業名	都市下水路等維持補修費		事業コード	32630

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	質の高い都市基盤の整備を進めます	事業開始年度
基本施策名	第6節	下水道の整備と管理	~63 年度
施策名	第3施策	下水道管理の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

下水道法第1条, 第26条
---------------

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
破損及び老朽化した都市下水路管理施設(護岸や転落防止柵など)を維持補修することにより、治水機能を保持し、浸水被害の解消と市民生活の安全性を確保する。		都市下水路沿線住民	
		対象数	約1000人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
安全柵等修繕	5件 1,628千円	なし	
護岸等補修	4件 9,351千円		
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~ 年度

4 評価指標

指標名	護岸崩落事故防止率	転落事故防止率
指標式	$(100 - \text{護岸崩落事故発生率}) / \text{目標安全率} \times 100$ (H13実績: $(100 - 0) / 100 \times 100$ )	$(100 - \text{転落事故発生率}) / \text{目標安全率} \times 100$ (H13実績: $(100 - 0) / 100 \times 100$ )
指標設定の意図	護岸崩落事故の防止率を表すことにより、都市下水路の安全性を表す	転落事故の防止率を表すことにより、都市下水路の安全性を表す

5 目標と実績

[金額単位: 千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	100.0	100.0	a 100.0	b 100.0	100.0	
指標	100.0	100.0	c 100.0	d 100.0	100.0	
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	7,175	2,317	10,979	17,500	12,550
	人員・時間数	30時間	30時間	30時間	30時間	30時間
	人件費	125	125	125	125	125
	その他経費					
	合計	7,300	2,442	11,104	17,625	12,675
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A:達成している (100%)	理由: = 、 、 の平均値 = 100.0%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%> )		
$\frac{a}{b} \times 100 = \frac{100.0}{100.0} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{c}{d} \times 100 = \frac{100.0}{100.0} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{e}{f} \times 100 =$	
理由:	維持修繕や維持補修工事を行うことにより、護岸崩落や転落事故を防ぎ浸水被害の解消と市民生活の安全を確保できた。		
(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由: 崩落事故や転落事故が発生すると都市下水路の管理責任が問われる時代であり、必要である。	
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		
(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由: 早急に補修することにより、安全性だけでなく大きく損壊することを防ぎ経済的である。	
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		
(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A:代替の可能性ない	理由: 下水道法第26条の中で、市町村が行うことになっているため、事業の代替性はない。	
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		
(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A:満足できる	理由: 市民からの要望に対しては極力対応しており、未然に事故も防いでいる。	
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		
(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由: 浸水被害の解消と市民生活の安全性を確保するためにも有効である。	
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明: 年1回、都市下水路パトロールを実施し、施設の点検をしているが、回数を増やすことにより、施設の安全度を増すことができる。</p>
	<p>コスト改善余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明: 危険度の低い修繕等は、一括で効率よく発注し、低コスト化をはかる。</p>

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明	都市下水路施設は、工事完了後40年以上経過しているところもあり、護岸やフェンスの老朽化が見受けられ、また国有水路においては、玉石積でつくられた古い水路もあるため、今後維持補修工事は増加するものと見込まれる。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--